

1 挨拶

(福生市 加藤市長)

皆さん、こんにちは。加藤でございます。

本日は、私ども5市市長が語る地域連携自治体シンポジウムに、大勢の皆様にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

調布、武蔵野、東村山、東久留米の各市長さんにおかれましては、一昨日の台風15号が関東地方を直撃いたしまして、様々な爪痕を残した訳ですが、その後始末に追われている中、時間を割いていただき、福生市までお出でいただきまして、誠にありがとうございます。

実は福生市でも、この市民会館のすぐ近くの2,900戸が停電いたしました。それと、全域で倒木や道路の冠水がございまして、本当に大変な状況となっておりますが、その中でも、人的被害がなかったことが不幸中の幸いだなと思っております。これから、その災害対応に追われると思いますが、よろしく願いいたします。

今回、このシンポジウムでございますけれども、昨年からはじめました。昨年は調布市さんで、「市民との協働」というテーマで第1回目を行わせていただきまして、先ほども記者の方達から質問を受けたのですが、何故この自治体の市長が集まっているんだと。地域も規模も違うし、様々な形態が違う中で、何故この5つの市なんだということを質問された訳でございます。

今、多摩26市、400万人がお住まいでございますが、その26市の中、市長の平均年齢は大体60歳代半ばでしょうか。私ども40代、50代のいつも気軽にお話をさせていただいている市長が、色々な形で、それぞれの市で、それぞれのテーマで語り合った方が良いのではないかとということで、声がかかりまして、今回は福生市で開催させていただきます。

そして、皆様御承知のように、3月11日に東日本で大変な事が起こりました。今回はそれに対して各自治体が様々、走りながら、色々な対処をしてきたということ、先ほどもお話を伺ったのですが、一度振り返って見て、これからの防災対策に向けて、考え直そうじゃないかというお話をいただきましたので、これをテーマにさせていただきました。

テーマがテーマでございます。今も大変な生活を強いられている方々が現地でいらっしゃいます。そして、約2万人の方がお亡くなりになり、または、行方不明になっているということでございますので、大変恐縮でございますが、皆様御起立をいただきまして、まずは黙祷をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

— 黙禱 —

ありがとうございます。

様々、規模も違いますけれども、各自治体が行ってきたこの震災に向けての、市民に対してどういう風に考えるかということでございますけれども、私ども5市市長たぶん同じ考えだと思いますが、地域でお住まいになっている方の生命・財産、そして安全安心にお暮らしいただくことが、最大の責務と考えております。それを踏まえまして、今回のテーマを決めさせていただきましたので、ぜひ皆様、これからの防災対策に向けて、今日のシンポジウムが一助となることを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

よろしく願いいたします。